

白丁花

き、是を植ゆ、戸毎に紙を製し、江戸及び東西に出して資益とす、今駿河紙と號して、墨付唐紙に似たるもの即是也。

〔和漢三才圖會八十四〕白丁花俗稱 花白而微有丁香之氣、故俗名之、

按、白丁花小樹、高二三尺、枝莖勁、葉似狗黃楊葉、四月開小白花、大三分許、一種有千葉者、折枝莖寸寸插之能活、叢生爲牆籬際限、人家檐滴下植之、

〔大和本草十一〕白丁花 小木ナリ、葉花モ小ナリ、筑紫ニテバ。ン。テイ。シ。ト云、漢名シレズ、春秋枝ヲサセバ能生ズ、四月ニ小白花ヲヒラク、庭ニウエ籬トシ、梢ヲ一様ニヒキク刈ト、ノフ、枝繁密ニ花サキテ可愛實ナシ、陽地ヲ好ム、陰地ニ植レバ不榮無花、又ヲランダ白丁花ト云木アリ、相似タリ、

三椶

〔和漢三才圖會八十四〕三椶木正字未詳

按、三椶木高丈許、枝椶皆三叉而葉似水楊葉、開小黃花、作房、

〔廣益國產考五〕椶略中

駿州由井宿より興津の間さつた峠の山杯に三ツ椶またといへるものを植て、倉澤其外にて紙に漉いだすなり、木は餘り大木となる事なし、山に植て三四年目に伐て、椶を蒸やうに桶の蒸籠にてむし皮をむき、椶同様に干上置水に浸して皮をこそげ、河にて晒むして板の盤の上にてたゝき、紙に漉事は、椶の紙を漉に少しもかはる事なし、此苗は冬より春にかけて花咲みいりたるを、五月に實の熟せし時取て干揚、春に蒔ば追々芽を出すを、程よく間引、綿を仕立るやう致しなば、其十月には壹尺五六寸には伸もの也、夫を翌春山か畑などに植置ば、三四年目には大は火吹竹ぐらゐ、小は手の指ぐらゐに伸たるを、右に云如く伐て、苧そとなし紙に漉事なり、此三ツ椶またにて漉たる紙は唐紙に似て、堅にもさくる也、武州邊玉川杯にて漉和唐紙は、此三ツ椶を多く椶を少し入